小さくても、たくさんあります。大切にしたい、ふるさとの文化。

さぬきの農山漁村
ふるさと文化

かがわに残るたからもの。
それは受け継ぐ人があってこそ。
たからものを守る人に
あなたも会いに行きませんか。

香川県農政水産部農村整備課
電話：087-832-3449　ファックス：087-806-0205

令和2年2月発刊

香川県ふるさと文化｜残したいさぬきの農村・山村・漁村の文化

たからばこ

農山漁村

香川県ふるさと文化
アーカイブス
2020
（2017版更新）
ARCHIVES

まもりびと

おもてなしの里「五名（ごみょう）」を守る

山南（さんなん）の「農業と味」を守る

「奥塩江（おくしおのえ）」を楽しみ「奥塩江」を守る

島の万里の長城「猪鹿垣（ししがき）」を守る

多度津の恵みで「ふるさとの味」を守る

お蚕（かいこ）さんの蔵奇跡の「風穴（ふうけつ）」を守る

心を潤す山里「五郷」を守る

かがやくけん、かがわけん。
香川県

おたから発掘-❶

おもてなしの里「五名（ごみょう）」を守る

おたから守り人≫東かがわ市五名／「五名活性化協議会」

❶「五名ふるさとの家」
「五名活性化協議会」の拠点として令和元年7月に新しくオープンした「五名ふるさとの家」
営業は金～月曜日の8時30分～ 16時。

加工品や野菜の販売、
モーニングやランチも。

アーティストたちが集う里

東かがわ市の山懐に抱かれた五名。ここにも少子高齢化の波は押し寄せました。小中学校が廃校となり、その建物さえ消えてしまうことが決定し、地域存続の危機を感じた人々は、五名の元気を守りたいと「五名活性化協議会」を結成し、魅力づくりや未来づくりに励んでいます。その活動が優れているとして、平成27年度には「全国過疎地域自立促進連盟会長賞」、令和元年度には豊かなむらづくり全国表彰事業において農林水産大臣賞も受賞しました。この五名で驚くべきことは、若い移住者が多く集まっているということです。この20年ほどで、その人数約40人。それも、陶芸作家、木工職人、草木染アーティスト、自然食の料理人、イラストレーターなど、魅力あふれる人々ばかり。そうした方々のサポートをしてきたのが、「五名活性化協議会」のメンバーである木村京子さんです。

1｜たからばこ

五名活性化協議会　木村京子さん

五名の魅力は人

木村さんは、五名地区女性部の代表でもあり、移住者の方々から、五名のお母さんとして慕われています。木村さんに五名の魅力をうかがってみました。「五名の魅力は、やはり人です。同じ東かがわ市の福栄地区からお嫁に来ましたが、人が来るたびに、お酒や酒の肴をふるまうのに驚きました。30代で大病をしましたが、退院した時に目に映ったのが、広がる春の山々でした。『なにもない冬の山から、春が来ればまたこうして元気になります。がんばって』と励まされた気がしたんです。そして、影になり日向になり助けてくれる地域の皆さんの温かさが身にしみました。

移住を希望する方には、不便な点も説明し、地域のつながりも、無理をしない範囲でお願いしています。そのせいか本当に良い人ばかりが来てくれました。今、新たな五名の魅力や元気が生まれているのですよ」と語ってくれました。

北海道のご出身、おもてなしに感激し五名に移住
飯村大吾さん・遊宇さん

東日本大震災の復興ボランティアに参加した大吾さんが、それまでの価値観に疑問を持ち納得できる生き方を求めて旅に出ました。北から南の果てまで巡り、温暖で災害も少なく、住み良い香川県で住むようになり、さらに、人々のおもてなしに感激し、五名に移り住みました。

大吾さんは「五名里山を守る会」の林業研修生となり、林業や鳥獣害対策などについて学び、現在は独立し林業や狩猟に携わっています。遊宇さんは、農業のお手伝いをしたり、特産品のパッケージなどの作品を手掛けたりしています。お子さんも生まれ、ゆったりとした自然の中での暮らしを楽しみながら子育てをしています。また、大吾さんは令和元年7月に新しくオープンした「五名ふるさとの家」のカフェの料理人としてジビエ料理を提供しています。

「のうさぎカフェ&ギャラリーくるみ」で五名の恵を提供する
大隅知岳さん・良子さん

東かがわ市松原で生まれた知岳さん。料理の世界で修行を重ねていましたが、決まった食材や加工品を使った料理を作ることに疑問を感じるようになりました。自分なりの工夫や思いを込めて作りたいと考えるようになったのです。そこで、両親の実家の近くで店を開くことを決意。「以前、飲食業の仕事をしていたときは、ひたすら働いて眠るだけでしたが、ここでは草抜きをしたり、季節の果物でジャムを作ったり、無理をせず、あるもので心豊かに過ごすことができます」と話してくれました。

今では、良子さんと結婚し、お二人でカフェを営み、すてきな時間を提供してくれます。現在、お二人は「五名活性化協議会」のメンバーでもあり、皆さんと一緒に五名の魅力について活発に議論しています。そこで、一番大切なモノが見えてきたそうです。それは『人々の温かさ』、それこそが五名の魅力だと語ってくれました。

2

3

❷炭焼き窯／「五名里山を守る会」の林業研修生である大吾さんは、炭焼きも行います。飯村さんご夫妻の一番の近所には、炭焼き窯があります。
❸のうさぎカフェ&ギャラリーくるみ／営業は金・土・日の11時～16時。ランチは1,000円～、メニューはその日によって、季節次第、畑次第で変わります。☎090-5946-7286

ふるさとお宝
周辺マップ
Treasure Map

■問合わせ／五名ふるさとの家　☎0879-29-2832
五名活性化協議会
HP http://www.gom-you.com
E-mail: gomyou.activatept@gmail.com
■アクセス／引田インターから国道377号を徳島方面に向かい車で約25分。
大窪寺からは国道377号を東に進み車で約10分。

おたから発掘-❷

山南（さんなん）の「農業と味」を守る

おたから守り人≫三木町小蓑地区／「山南営農組合」

❶山南営農組合の農村レストラン「どんぐりころころ」
農産レストラン部会が、毎週日曜日11時から14時までレストランを開店します。

❷和風鯨（やまくじら）御膳
農村レストランでは、予約をすれば猪の肉を使った「和風鯨（やまくじら）御膳」を味わうこともできます。

分水嶺の南「山南」の明日を思い

三木町の山間部、小蓑地区には分水嶺があります。北に向かう吉田川と南の香東川へと分かれるその峠から南を「山南」と呼んできました。その昔は、農村歌舞伎まで催されていた隣町（現在の高松市塩江町）の隆盛もあり、多くの人が住んでいたというこの地域も、ご多分に漏れず過疎化の波が押し寄せてきました。清らかな水の流れがあり、なだらかな山肌に田畑を切り開き、先人たちの努力によって、質の良い農産物が収穫されてきましたが、今では後継者問題に頭を痛めています。

イベントでは地元で採れる農産物や加工品を販売

そこで、高齢化した農業従事者の負担を少しでも軽減し、後継者問題の打開策を見出したいと、農業施設を整備することになり、それに合わせ、平成16年「山南営農組合」が誕生しました。「戦争を経験した世代は、食べ物がなくなる怖さも知っているから、一人で歯を食いしばっても田畑を守ってきましたよ。でも、戦後生まれは、つらいことに耐えてまで、農業を続けようとは思えない。そこで、組合をつくり部会をつくって、みんなで力を合わせやっていきたいということです。学生時代の部活と同じで、苦しいことがあっても、みんなでやれば楽しいことも多く、続けていけるんですよ」と語るのは、設立当時から組合長を務める阿部泰人さん。「山南営農組合」は、小蓑地区全域のおよそ50戸が加入。まずは食味が良いことで知られてきた小蓑の米を守ろうと、お米に関する3つの部会が生まれました。

多角経営で農業環境を守る

けれども、農業だけでは組合活動は成り立っていきません。そこで、多角経営にも取り組み、「山南猪肉部会」「農村レストラン部会」「グリーンツーリズム部会」など部会は全部で九つになりました。

平成21年にオープンした“農村レストランどんぐりころころ”では、ランチを提供していますが、モーニングも出しています。その料金が驚くほど安価なので、早朝から準備しているという“なごみの会”の多田さんにお話を聞くと、「一人でも多くの人に来ていただきたい、みなさんに喜んでもらいたい、その思いだけです」と笑顔で答えてくれました。その上、年末には、地域の方のお正月のお手伝いにということで、おもちやおせちの注文にも対応していました。

「すべては農業を維持していくための取り組みです。農家のみなさんは、農繁期はとにかく忙しい。問題は農閑期、その時期に遠くに仕事に行くのではなく、地元で年齢を重ねてもできる仕事を作っていきたいんですよ」と阿部組合長は語ります。

現在、地元で採れる農産物（栗、柿、しいたけ、野菜等）の加工食品を作る農産物加工場を手づくりで建設中です。また、かまどや五右衛門風呂など昔ながらの農家体験や田植や稲刈り、ウォーキング、農産物の収穫体験ができる宿泊施設を本年（令和2年）夏にオープンする予定です。

「昼は景色が良く、夜は星がきれい、季節には蛍が飛び交い、バーベキューやカラオケを楽しめる。一組限定でいろりの宿で宿泊ができ、雑魚寝ならば団体でも泊まれるという里を目指し、計画を進めています」と夢を語ってくれました。完成すれば、農村レストランの食事と組み合わせ、さらに各施設が有機的に活用されます。

「やりたいことはたくさんあるが時間が足りない」という阿部組合長。農業を柱に、山南のにぎわいを、みんなの手で取り戻しつつあるのです。

❸山南営農組合／「ライスセンター部会」「オペレーター部会」「産地直売部会」のお米に関する3つの部会からスタートした山南営農組合。現在では九つの部会となり、さらに、法人「チーム虹」を結成。写真は建設中の農産物加工場❹虹の滝／小蓑地区のシンボル。❺定規をつかった昔ながらの手植えによる田植体験。

ふるさとお宝
周辺マップ
Treasure Map

■問 合 せ／山南営農組合（どんぐりころころ）
〒761-0615 香川県木田郡三木町大字小蓑928-1
☎090-4501-6949（阿部組合長）
■アクセス／ 193号線（塩江街道）を徳島方面に進み、虹の滝大橋を北へ入ります。そのまま道なりに車にて約5分で、農村レストラン「どんぐりころころ」に到着します。

おたから発掘-❸

「奥塩江（おくしおのえ）」を楽しみ「奥塩江」を守る

おたから守り人≫高松市塩江町／「奥塩江交流ボランティア協会」

❶「大滝山の栽培」
茶畑復活事業から生まれたオリジナル煎茶「大滝山」。メンバーやボランティアの手で育てられています。第1日曜日と第2土曜日の朝8時30分に「モモの広場」に集合し、お茶畑の作業をします。体験参加も可能です。

❷「モモの広場」
香東川の源流、内場川のほとりにある「モモの広場」。自然豊かなこの地で、さまざまな行事が開催されます。

山の暮らしを愛する人とその思いに共感する人

高松市の奥座敷と言われる「塩江」ですが、一口に「塩江」といっても、温泉がある塩江地区、香川町に近くベッドタウン化が進む安原地区。そして、もっとも山深くに位置する上西地区があります。面積では高松市の9%を占める上西地区には、かつて3つもの小学校がありましたが、今は1校も残っていません。しかし、ここには素晴らしい自然が残されています。そこで、自然環境を守りながら、人々の絆を深め、この山里を守りたいと活動を続けているのが、「NPO法人奥塩江交流ボランティア協会」です。

この会を立ち上げ牽引してきたのは、大西佑二理事長。

「塩江には、かけがえのない山里の環境が残されています。その自然風土の中で、多くの人が交流し、絆を深めてほしいのです。子育て世代の人々にとって、住むには不便があっても、週末に訪れるには最高の場所です。また、退職後に『のんびり過ごしたい』『ヘラブナ釣りを思う存分楽しみたい』『ゴルフ三昧の日々が夢』という理由で移住する方もおられます。それぞれの形で、上西を舞台に交流の輪を広げ、持続可能な山の暮らしに共感していただきたいのです」と語ります。

その交流拠点となるのは、かつて上西中学校兼公民館、さらに保育所として使われてきた講堂や校庭。「本当の時間」を大切にしてほしいという願いを込めて、時間泥棒から町を守る童話の主人公「モモ」にちなんで「モモの広場」と名付けられました。ちなみに古代ギリシャの“広場”は、民主主義国家の市民が議論を交わし、時には楽しむ大切な場所でした。そこで、住む人、訪れる人、すべての人が楽しく交流することで、より良き明日がつくられる、そんな広場にしたいという思いも込められているそうです。

高松市塩江町上西地区
非特定営利法人　奥塩江交流ボランティア協会
理事長　大西佑二さん

山村の環境と文化を守る

現在、協会の会員は約100名。大西理事長を中心に、幾つかの会や事業が企画・運営され、メンバーは「好きな時に、好きな活動」に参加しています。例えば、毎月定例で行う「まんぷく会」、「歌声喫茶チャロ」のほか、春や秋には阿讃山脈の高峰を歩くトレイル（稜線）ウォークやハイキングが行われます。旧上西村には峠が14もあるので、調査を行って標識を立て、裏山や古道に残る石仏などを訪ねるやま歩きもしています。

「モモの広場」では、木造の講堂、緑に囲まれた屋外などの恵まれた立地を生かして、毎春、「山なみ音楽祭」を開催しています。ここをメイン会場にして令和元年には「かがわ・山なみ芸術祭2019SHIONOE」も開かれました。

そして、平成24年からは「茶畑復活」に取り組んでいます。昔は、上西地区をはじめ阿讃の山間のたいていの農家には、畑の畔（ほとり）にお茶の木が植えられていて、自家製でお茶が作られていました。戦後には、上西地区では多くの農家が本格的に茶の栽培をするようになり、協同の製茶工場もありましたが、近年は次々と茶畑の耕作放棄が見られるようになってきたのです。そこで、高冷地ならではの良質のお茶を何とか存続させたい、あわせて山村の美しい景観も守りたいとの思いから、放置された茶畑を復活させる取り組みを始めました。

茶畑の形が復元できた今は、毎月2回、草取り、施肥、整枝などの作業をします。5月の「手摘み」には特に大勢のボランティアを募集し協力をお願いします。

お茶離れの若い世代にお茶に親しんでもらおうと、自分たちで摘んだ茶葉を焙炉（ほいろ）で手もみ製茶する体験イベントや、お茶を嗜（たしな）む文化に目を向けてもらうようなお茶会・ワークショップなども行っています。

平成31年からは、「お茶」に加え、「そば」や「じゃがいも」「大根」などの栽培にも手を広げ、「楽農人」を自認する仲間たちは、共に育て、収穫し、味わう楽しさを満喫しています。

❸まんぷく会／第3日曜日（通常10:00～15:00）800円（会員500円）昼食付き
❹環境塾／令和2年2月16日（日）、3月15日（日）参加費500円昼食付き

ふるさとお宝
周辺マップ
Treasure Map

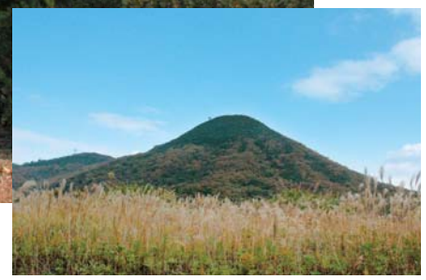
■問 合 せ／NPO法人奥塩江交流ボランティア協会
☎080-5665-1614（大西佑二）
高松市塩江町上西甲29-1
HP https://oks385.wixsite.com/momo
■アクセス／高松方面から国道193号線を南下。塩江バス停（＝道の駅）手前の交差点を右に曲がって県道7号線（美馬塩江線）を4km、県道154号線を150m進みます。道の駅から車にて約8分。

おたから発掘-4

島の万里の長城「猪鹿垣（ししがき）」を守る

おたから守り隊≫小豆島／「小豆島の猪鹿垣を考える会」

❶長崎のしし垣
この垣は土塀であり、長年風雨にさらされたため崩壊が進んでいます。最高部1.6m、幅0.6mです。長崎地区へとつながっており、頂きから見る瀬戸内の眺望はすばらしい。



❷神浦富士の石垣（こうのうら）
この山の頂上部に石垣があります。ここの石垣は鬱そうとした木立の中に謎を秘めて構築されています。

小豆島に残る「猪鹿垣（ししがき）」

小豆島には江戸時代に造られた鳥獣被害防止の猪鹿垣が残されています。その調査を行い、守り残したいと活動しているのが『小豆島の猪鹿垣を考える会』です。そこで会の世話役をしている太田義行さん、武部廣文さんに小豆島町三都半島にある猪鹿垣スポットを案内してもらいました。

江戸時代の小豆島では、島塩の生産の燃料として山の樹木を伐採し、穀物栽培①のため山頂近くまで開墾を進めました。山での食料確保が困難となったイノシシらが餌を求め、人里近くにまで下りて田畑を荒らすようになり、作物を守るため18世紀中期②にはすでに猪鹿垣が築造されていました。それまでの山は獣、里は人という棲み分けが崩れた結果ともいえます。小豆島では、「シシガキ」を「猪鹿垣」と書きます。イノシシだけでなくシカの被害に悩まされてきたことが分かります。「小豆郡誌」（大正時代編纂）によれば、寛政2（1790）年には、全島を一周して三十里（約120km）の猪鹿垣が完成したと伝えられています。島の猪鹿垣は日本有数の長さを誇ります。「小豆島の猪鹿垣を考える会」では、さらなる古文書の発見、未確認の猪鹿垣についても、地道な調査、実測を続け、記録を残したいと取り組んでいます。

全国的に見ると、シシガキは、公共事業として構築されたものが大半で、人足に賃金を払い、どこからどこまで何ヶ月を要して造ったという記録が残されていることが多いそうです。ところが、小豆島の「猪鹿垣」は、「自普請（じぶしん）」といって農民たち自らが申し出て造られました。ですから記録も少なく、数々の謎につつまれています。島の万里の長城ともいわれる「猪鹿垣」は、自分たちの暮らしを自分たちで守るという島民の心意気を伝えるふるさと遺産だったのです。

太田義行さん（右）と
武部廣文さん（左）

①特に小豆島では享保年間（1716年～1736年）に、甘藷が伝わり畑を造成したと伝えられています。
②それ以前にまでさかのぼるとも言われています。

長崎のしし垣

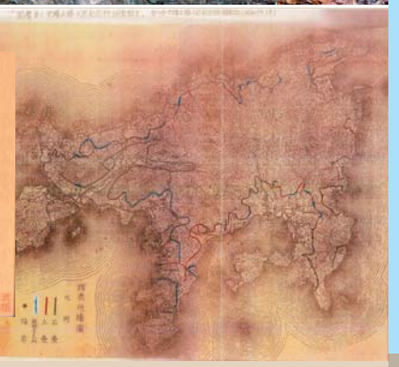
最初に訪ねたのは、小豆島町指定有形文化財「長崎のしし垣」。ここには、延長約200m、主に土積みの「猪鹿垣」が尾根伝いに続いています。土塁の「猪鹿垣」としては、おそらく日本一の規模と言われています。

築造年代は不明ですが、その工法は、木で型枠を組み、両側の板を棒状の“ヒッパリ”で固定し、その型枠の中に水でこねた土を3段に分けて積み重ねるというもの。瀬戸内海に向かって「猪鹿垣」が続き、つい眺望の見事さに目を奪われてしまいますが、先人たちの細やかな技や知恵が見られる「長崎のしし垣」です。

神浦富士の石垣（こうのうら）

次に訪れたのは、半島の尾根部にある神浦富士（191.8m）頂上の石垣です。最高部2.3m、板状の安山岩を何段にも積み重ねており、かなりの巨石もあります。平坦な頂上部で、北からの石垣を東西の石垣がT字型に受け止めた形になっています。東へ延びる石垣は崖へ落ち込み、西側は急坂、富士地区まで延びているとのことです。」どうしてこのような形にしたのかは謎です。隅にイノシシ、シカを追い込んで捕らえたのではと考えた人もあるようです。この付近、蒲野地区には石垣、土塀が複雑に構築され、崩れながらもかなり残存しているということです。

それにしても、ここも近くに田畑が見えません。実は小豆島の「猪鹿垣」の築造の目的は鳥獣対策だけでは無かったのではと考えられています。郷堺ではと推測される個所もあります。その両方の役目を担っていたのかもしれません。



❸棒状の「ヒッパリ」で固定したジョイント工法の穴の跡が見え、場所によっては、ムシロの跡が残されています。❹「小豆島の猪鹿垣を考える会」では、平成28年これまでに進めてきた調査・研究活動の内容を冊子にまとめました。❺「國賓並二史蹟名勝天然紀念物調査報告」香川県史蹟名勝天然紀念物調査会（昭和9年3月）による小豆島の猪鹿垣の地図。全島に張り巡らされていることが分かります。

ふるさとお宝
周辺マップ
Treasure Map

■問 合 せ／武部廣文 ☎080-5666-1623
■アクセス／池田港から国道436号と県道251号線を経由して車で約16分。さらに山道を徒歩約5分で「長崎のしし垣」です。

おたから発掘⑤

多度津の恵みで「ふるさとの味」を守る

おたから守り人＞＞多度津町／「多度津さくら工房」

❶「多度津さくら工房」
地元の特産品でさらなる名物を生み出す「多度津さくら工房」時には、町外で多度津自慢の味を売り込みます。この日は県庁の生協で、焼き肉のたれやジャム、桜餅やオリーブ入りのばら寿司、黒豆ご飯も販売しました。

焼き肉のたれとジャムのミニセット。ミニトマトのコクがたまらない焼き肉のたれとジャム。ミニセットは、お試しや手軽なお土産として大人気です。

多度津の自慢を生かします

多度津町は、ミニトマトの産地として知られています。そのミニトマトを使い、おいしい製品を生み出し、地場産業として取り組んでいるのが「多度津さくら工房」です。この工房を率いているのは、池内靖子さん。

平成25年、多度津町と農業改良普及センターの方から、ミニトマトを使った焼き肉のたれをぜひとも商品化してほしいと依頼があり、「多度津さくら工房」を立ち上げることになりました。それからは、メンバーと共に、自慢の製品を次々と生み出しています。

多度津さくら工房
代表　池内　靖子さん

まずは、地元産のミニトマトをたっぷり使った「きしゃぽっぽ焼き肉のたれ」や「きしゃぽっぽジャム」。さらに、地元のオリーブを使った「鰆とオリーブのふんわりそぼろ」、地元の名産であるブドウのデラウェアとケーキ用米粉100%でつくる「ばあばのブドウクッキー」、町花のぼたん桜の葉を使う「ばあばの桜葉クッキー」など、厳選素材を使った新商品を次々と開発し、セット商品も企画しています。

積極的に営業活動も行い、ギフトの要望があれば、のし書きやラッピングも用意します。「もちろん、一人ではできませんよ。メンバーの皆さんがいてくれるから、前を向いて頑張れるんです。」という池内さんです。

さらに多度津社会福祉協議会の評議員や人権擁護委員を務め、「輝く女（ひと）inかがわ*」にも掲載されました。その上、官民が一体となり多度津町の魅力を町内外へ発信していく多度津プロジェクトまねきねこ課のメンバーとしても活躍しています。多度津中学校の非常勤講師をはじめ、学校や幼稚園や地域の食育授業の要請がありあちこちから講演の依頼も多くまさに八面六臂（はちめんろっぴ）の活躍です。

*内閣府の地域における女性活躍推進事業の採択を受けて作成した冊子。香川県で特に活躍する女性のみなさんを推薦により紹介しています。五名の木村京子さんも掲載されています。

本物の味を伝えたい

北海道で育った池内さんは、22歳で結婚して香川に来ました。最初、嫁ぎ先のお父さんは北海道の濃い味が苦手で作った料理に手をつけてくれなかったそうです。そこで、讃岐の味を覚えようと必死になりました。生活研究グループに入ってからも、郷土のいろんな味を覚えようと努力を続け、「香川県むらの技能伝承士」や、「さぬきの食文化博士」にまでなりました。こうして、郷土料理の講師を依頼されるようになったのです。

地元では、さくら工房のメンバーや生活研究グループの仲間、幼稚園のお母さんたちに、国産の大豆で作る「みそづくり」も教えています。そして、このみそがベースとなり、多度津自慢の「焼き肉のたれ」が生まれるのです。

「楽して良いものはできません。地元のためにも生き残る企業、ちゃんと売り上げを出す企業にしなければ。今は、その準備期間。そうして、次の世代にバトンタッチできればと願っています」と語る池内さん。本物の素材でふるさと自慢の味を広めたい、残したいと、寝る間を惜しんで奮闘を続けています。

＜みその作り方＞
❶蒸し上がったお米を38度から43度くらいに冷やします。❷麹菌を全体にまぶし、菌がよく浸透するよう、強くもみつけます。❸発酵機をセットして、一番手入れ（菌が繁殖すると麹が固まってくるので、全体に菌が混ざるように一粒一粒ばらばらにほぐすこと）、時間を経て二番手入れをします。❹3日発酵してできた麹です。❺ふかした大豆と麹に塩と水を入れます。❻大豆と麹をよく混ぜ合わせます。❼まぜ合わせたものをミンチにします。❽3ヶ月熟成してできあがった中みそ。大豆も米も地元産なので、安全で味の良いみそと評判です。

●販売店一覧

ゆめタウン高松
かがわ物産館「栗林庵」
道の駅　源平の里　むれ
道の駅　空の夢もみの木パーク
JA香川県　讃さん広場
JA香川県　産地直売所多度津店
直売所たどつシルバー
ランプ　山地ファーム（善通寺市）
喜田建材（詫間町）
産直市うたづ
産直市八幡
産直市くばら
多度津さくら工房より直接

■問合わせ／多度津さくら工房　☎090-7147-0740（池内靖子）

おたから発掘-5

お蚕さんの蔵（かいこ）奇跡の「風穴（ふうけつ）」を守る

おたから守り人≫三豊市仁尾町／真鍋正和さん

❶「志保山（しおやま）の風穴」
整備された風穴は、間口約4m、奥行き約4m、地下部分の高さ約1.3m、全体の高さ約7m。全体的に讃岐岩質安山岩で形成され、その上に近くの石切場から切り出した凝灰岩が積み上げられています。

往古の風穴の姿
大正8年仁尾村誌によると、かつて風穴の上には屋根がかけられ、繭を保存していました。

よみがえる風穴

明治時代から昭和初期にかけて日本では、生糸の生産が盛んに行われていました。その象徴が世界遺産に登録された「富岡製糸場」です。香川県においても、生糸を作るための養蚕[*1]が農家の大切な収入源でした。その歴史を物語る場所が、三豊市仁尾町の志保山（しおやま）で、再発見された「風穴」です。風穴とは、夏にも冷たい風が吹き出す穴のこと。蚕の繭を生産調整[*2]するために、冷気を吹き出す風穴が利用されていたのです。しかし、第２次世界大戦後は化学繊維の台頭で養蚕は衰退し、いつしか小屋も風穴も忘れ去られていきました。

この風穴を再発見したのが、仁尾町に住む真鍋正和さん。自治会で「志保山に風穴があったと聞いたが、どこにあるのだろうか」という話が出て、少年時代に見た風穴探しを始めました。すでに、道は失われ、樹木や竹が生い茂るばかりの山中をさまよい、やっとそれらしいものを発見しましたが、昔の面影は全くありません。多量の土砂が覆い被さり、わずかにのぞいた石垣で風穴であると確認できるばかり。

すると、詫間町の矢野さんが「これはぜひ残すべきだ。協力しますよ」と申し出てくれました。さらに、三野町や豊中町の方々も参加し、５名で風穴の整備が始まりました。まず風穴までの道造り。山裾を頼りに、竹藪や倒木などを切り開き、土を固め登山道が生まれました。その道を使って道具を運び、風穴の石垣づくりが進められました。そうして１年をかけ、見事な風穴がよみがえったのでした。

*1.蚕に桑の葉を与え飼育すること。蚕の繭から生糸がつくられ、生糸から絹織物が生まれます。1900年頃、日本の生糸輸出量は世界一でした。
*2.蚕は春には盛んに繭を作りますが、秋には活動が衰えます。ところが蚕の卵を冷蔵すると、繭作りを秋まで延ばすことができ生産量を増やすことができました。
※香川県内では、綾川町の高鉢山の風穴も蚕の冷蔵に使われ、大いに役立ったということです。

向かって右から真鍋正和さんと矢野節夫さん

眺望や山桜を楽しむ登山道

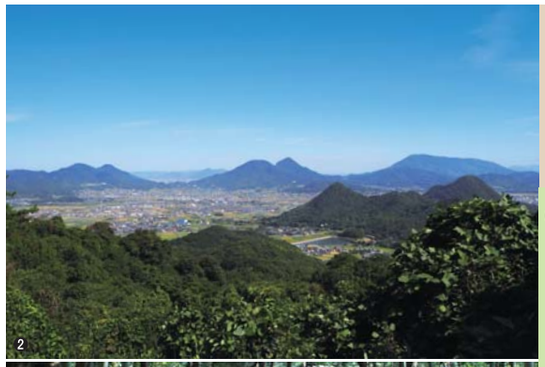
真鍋さん達はそこで手を止めませんでした。ふるさとの里山に親しんでもらいたいと、登山道の整備を進めました。風穴から少し登ると石垣に用いた石の石切場跡があります。ここからの眺望は燧灘（ひうちなだ）や讃岐平野を一望できる見事なものです。また、志保山の北斜面には山桜が群生しており、大木があるはずだとの声もあります。そこで、山頂までの登山道を完成させました。山頂からは、父母ケ浜から、しまなみ海道の島々が一望できます。さらに、尾根伝いに「天空の鳥居」として人気の観音寺市の稲積神社まで縦走を楽しむこともできます。

山歩きを楽しむ人々は、風穴に寄り道して、ひとときの涼を求めます。時には子どもたちが遠足に訪れ、「養蚕」を学びます。真鍋さんたちの手で、ふるさとの歴史を一つ、つなぎ止めることができました。けれど、真鍋さんの仕事は終わりません。今でも毎日のように山に入り、登山道の整備や修復にいそしんでいます。時代を経て築き上げてきた里山の歴史が、再び埋もれてしまわぬよう願いながら・・・。

志保山の風穴の全体像

温度差で気流が生まれる風穴
外気が25℃を超えると10～12℃くらいの冷気が石積みの間から流れ出します。

気流を線香で見せてくれる真鍋さん



❷志保山からの眺め／展望台より丸亀市方面を望む。❸風穴登山口／看板は「まちづくり推進隊三野」の手作りです。階段は仁尾町の児童公園にあったものを利用しました。

ふるさとお宝
周辺マップ
Treasure Map

■問 合 せ／真鍋正和さん ☎090-3711-1050
■アクセス／鳥坂インターチェンジから車にて約30分で「風穴登山口まで220m」という看板。風穴登山口から徒歩約15分で風穴に至ります。

おたから発掘-7

心を潤す山里「五郷」を守る

おたから守り隊≫観音寺市五郷／「五郷里づくりの会」

❶「五郷の水車」
観音寺市、大野原町を潤して流れる柞田川の源流域、雲辺寺山を望む山辺の里に水車の音が響いています。五郷里づくりの会は、「五郷活性化のシンボル」として、かつては五郷の暮らしの身近にあった水車を復活させました。

里山歩き　みかん狩り体験（内野々）

荒れ地を救った地域が…

香川県、愛媛県、徳島県の三県が県境を接する中山間地に「五郷」と呼ばれる山里があります。井関、内野々、有木、海老済、田野々を総称したものです。寛永20（1643）年、この地に井関池が築かれるまでは、下流域の広大な地は「大野ヶ原」と呼ばれる人の住みにくい荒れ地でした。それが、井関池により、新田開発が始まり、さらに昭和になって豊稔池ダムや五郷ダムが築かれました。ここは、下流域の豊かな実りや暮らしを支えてきた、大野原の要ともいえる大切な土地です。

ところが、山あいや山辺に位置する「五郷」にも、ご多分に漏れず過疎化の波が押し寄せてきました。

調査結果に危機感

それは、平成22年8月のこと。「五郷」は、県の農村整備課が窓口となる「中山間ふるさと・水と土保全対策事業」（農林水産省）の調査研究事業に選ばれたのです。そこで、香川大学経済学部の西成准教授率いる大学生チームが調査研究を進め、地域の資源を生かした活性化策を検討し、地域の人々との話し合いも始まりました。

「調査研究を見て、このままでは駄目になる。何とかしなければという危機感が目の前に迫ってきました」と語るのは、設立当時に会長を務めた藤岡修さん。そこで、この調査結果を一つの切っ掛けとして、平成23年6月に「五郷里づくりの会」が発足しました。

5月5日は五郷の日

この会のメンバーは、五郷に住む住民全員。活動の中心は約30名の運営委員です。「できることをできるときに」と、力を合わせ、知恵を出し合って活動しています。

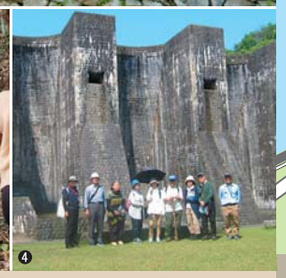
そして、平成25年には「水車建設委員会」を発足。自分達の手で木材を切り出し、水車小屋を建てるなど、素晴らしいチームワークを発揮。それは地域外にも広がり、水車軸を加工してくれた三豊工業高校（平成29年4月からは観音寺総合高校）の皆さんと共に水車を組み立て、平成26年5月5日に、水車の落成式を行いました。この5月5日は「五 郷（GOGO）の 日」。毎年総会を行い、バーベキュー等で親睦を深めています。

荒れ地に花を咲かせたい

皆さんが心を痛めているのは、耕作放棄地の問題です。そこで、少しでも力を合わせて畑の手入れをしたいと、ソバを作り始めました。9月に種をまき、11月に収穫。竹に掛けて干し、水車で粉をひいて手打ちソバをつくります。荒れ地に花や実のなる植物を植え、みんなで収穫し、みんなで味わう。その楽しさが五郷の暮らしを彩ります。

ピザ石窯建設中
～おいしいピザを作りましょう

水車小屋の傍に2基のピザ石窯と建屋を自分たちで建設しています。技術を持つ会員を中心に、石組み、コンクリート打設、耐火煉瓦積み、赤土塗り、木造建築工事と、全て得手に帆あげて手作りです。3月中には完成予定です。「体験活動」として、広く地区内外の方々が、ピザ作りを楽しみ、五郷の自然に包まれて、おいしいピザを食べ、体験や交流ができるような「心を潤す山里」にしたいと考えています。おこしください。



❷「五郷里づくりの会」は、「水車活用」「ソバ作り、ソバ打ち体験」「里山歩き体験・郷土料理掘り起こし」「情報発信」等の活動をしています。五郷の魅力を発信するパンフレットやホームページも作成しました。地域外の方を招く「里山歩き」は、平家伝説が伝わる有木の里をはじめ、5つのコースを用意して、年8回程度行っています。❸昔の小学生の通学路を歩く里山歩きコースです。❹豊稔池ダム

ふるさとお宝
周辺マップ
Treasure Map

■問 合 せ／五郷公式サイト　http://gogou.jp
里歩きツアー問い合わせ先　五郷里づくりの会　藤田一さん
☎090-4977-7503
■アクセス／大野原インターチェンジから車にて約15分で五郷活性化センター。さらに約6分走ると「五郷の水車」に至ります。